

すみだ景観フォーラム会報 ~ 第 5 号 ~

発行元(すみだ景観フォーラム事務局)
 墨田区都市計画部都市計画課
 墨田区吾妻橋1丁目23番20号
 電話: 03-5608-6266 / F A X : 03-5608-6409
 メール: toshikeikaku@city.sumida.lg.jp
 <会員数: 55 名(平成 25 年 9 月末現在)>

平成 24 年度はパネルディスカッションを行いました!

すみだ景観フォーラムでは、平成20年度より、実行委員を中心として様々なイベントを開催してきました。今回のテーマは「残したいすみだの景観～どう活かそうか 下町すみだの夜の風景～」とし、進行役に夜景評論家の丸々もとおさん、パネリストには墨田区に縁のある方々を迎え、すみだの夜の風景の魅力などについて語り合いました。パネリストからは、墨田区の夜の雰囲気について、昔と今の違い等をお話していただきました。

会場に集まった参加者もパネルディスカッションに加わり、活発な意見交換を行いました。料亭街や提灯の明かりを大切にしていきたいなど、すみだならではの意見が出され、今後のすみだの風景を考える上で、有意義な会になりました。

ご来場いただきました皆様、ありがとうございました。これからも様々なイベントを開催いたしますので、よろしくお祈りします!

パネルディスカッション

「残したいすみだの景観 ～どう活かそうか 下町すみだの夜の風景～」

日 時: 平成 25 年 3 月 16 日(土) 午後 2 時から 4 時まで

会 場: ユートリヤ(生涯学習センター) 本館 2 階 マスターホール

参加者: 62 名

内 容: 1 話題提供

丸々 もと お 氏 (夜景評論家 一般社団法人 夜景観光コンベンション・ビューロー代表理事)

2 討論会

【モデレーター】

丸々 もと お 氏 (夜景評論家 一般社団法人 夜景観光コンベンション・ビューロー代表理事)

【パネリスト】

塚本 やすし 氏 (本所地区出身・絵本作家、画家)

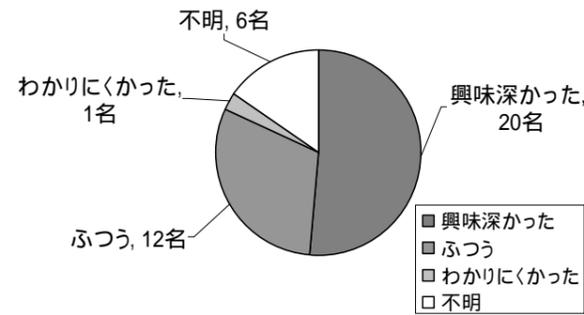
植野 勸 氏 (本所地区在住・光タワープロジェクト照射技術担当)

佐原 滋元 氏 (向島地区在住・茶亭さはら店主)

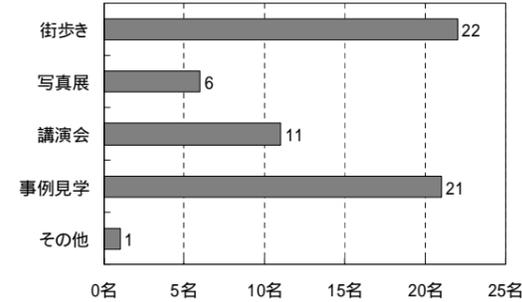


参加者アンケート結果

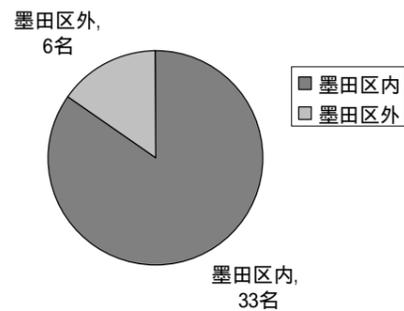
1 景観フォーラムの内容について



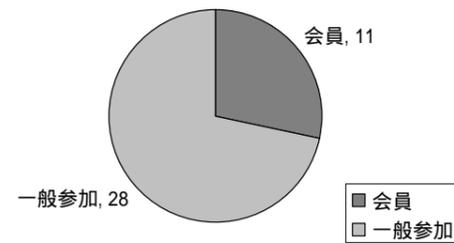
2 今後参加したい活動について



3 お住まい



4 すみだ景観フォーラム会員、一般参加者の内訳



5 ご来場いただいた方からのご意見・ご感想

- ・ 大変勉強になりました。ありがとうございます。
- ・ 区民の間でも立場によって様々な意見があって、墨田区らしい夜景について合意形成することはするのは、なかなか難しいなーと感じた。
- ・ 大変難しいけれど根気を持って継続していくと良い結果が得られると思います。
- ・ おもしろかったです。夜、町を歩く時、灯りを観察してみます。
- ・ 「あかり」を考える良いきっかけになります。
- ・ 身近なものにもう少し目を向けようと気付かせていただきました。
- ・ 自分の住んでいる地域の見なおしのきっかけになりました。
- ・ 私は墨田区外在住なので、区内在住の方の意見をたくさん聞いて良かった。知らなかった事をたくさん教えて頂いた気がします。夜は淋しいというイメージがあるが、スカイツリーができて、街も明るくなったと思う。全てがそうではなかった。しかし愛着があるのがとても感じた。
- ・ せっかくあるスカイツリーを背景の一つに組みこんで夜の風景、スカイツリーに登った人がスカイツリーから見下ろす夜の風景を考えてみたらと思いました。
- ・ 夜景のテーマってむずかしいところを丸々さんが色々話して下さり楽しかった。

『すみだ景観フォーラム』とは

区民のみなさんが、すみだの景観について意見交換・共通認識をもつためのきっかけの場です！
 どなたでも参加可能ですので
 ご希望の方は事務局までご連絡ください。

残したいすみだの景観 ～どう活かそうか 下町すみだの夜の風景～

当日の様子を一部ご紹介します！

植野さん

お金がかからずすぐできるのは隅田川ライトダウンですね。一度真っ暗にすると、どこに月や星があるか分かるんですね。照明と言うのは、例えば照らすものが神社仏閣はカッコいいのでやりようはあるのですが、あとは特殊なものでプロジェクションマッピングというのがあります。光タワープロジェクトをやったとき、明るすぎてしまって、満遍なく明るい逆に陰影が取りにくくなってしまふ。光タワーを見ていただくと、暗いところに明るいものがあるから美しいのであって、明るいところでやっても目立たない。「隅田川ライトダウン」で隅田川沿いの一部区間だけ電気を消してロウソクなどを持ち寄って見た時にコトが見えるかなと思います。

塚本さん

安全面から見ると、真っ暗な道を子供たちに歩かせるのは危険かなと思うんですね。僕の小さい頃はいい雰囲気です。街灯があったのですが、ライトダウンとか、電気を消して灯籠だけとすると、安全面から問題が出てくるのではないかなと思います。



植野さん

ひとつだけ気になるのは、最近親が手を抜いているかなと思うんですね。小さい頃、親に手を引かれて、注意されたりしながら歩いたんですね。なんでもかんでも安全だと言うのは大きな間違いで、明かり以外にも危険はあるのだから、親がもう少し協力してしっかり教育することだと思ふんですね。

佐原さん

「明かりと夜景」というと、どこか非日常的な部分と自分の家の前の景色と混同してしまっていて、自分の家の前の街灯の話と交通の街灯の話、例えば、「家の前の路地の夜景的にきれいになったね。誰でも見なくなるよこの路地は。」と言っても、夜中に観客が来られてもたまったもんじゃない。ただ、街のレベルを上げるために路地の方が協力して、例えば常夜灯を置いたりすると個性が出てくるんじゃないかなと思う。いま墨田区は空き家が増えている。これからどんどん空き家がふえてくると、街の中に住んでいる家と住んでない家がまだらになってしまう。本当にその街に生き生き住んでいる人が、楽しい夜の景色を自分たちで工夫して地域に提供すれば素敵な街になるんじゃないかなと思います。それを全部街灯にお願いして、区役所の税金でやろうとするから、だんだん街が寂しくなっていくのではないかなと思います。

丸々さん

これまでの話の中ですみだの夜の解決策が二つ出てきました。まず一つ目はイベント的なものを作って、シャワー効果でやっていくというのと、もう一つはモデルケースを作るもの。そこで、すみだオリジナリティなアイデアなどはありますか。

丸々さん

百花園のお月見の会では、明かりを最小限にして行うわけですね。安全面で言うと、危険なところには灯籠などを置いて実際やっているということですね。「隅田川ライトダウン」は安全面を差し引いて考えれば面白いですけどね。



モデレーター
丸々もとおさん(夜景評論家)

丸々さん

その街の人がその街のお祭りを楽しんでいるのを見るのは好きなんですよ。その土地に住んでいる人がその土地の伝統的なお祭りを楽しんでいる様子を見ると、そこに遭遇するだけでウキウキしてくるんですよ。なので、今あるお祭りなどをどれだけ現地の人が楽しんでいるのかというのが大切だと思います。

これまで話を聞いていて、皆さんがすごくこの街に愛着があると感じました。ただ、その愛着が外に発信できているのかなと言うのが少し疑問に思ったところでした。10年後、50年後、100年後にあるべき形と言うのを、例えば「この商店街における夜のテーマはこうゆうものにしたい」と言うものが一つ一つ挙がってきて、それに対して、「手法としてはこうしたほうがいいのか」という議論に繋がっていけばいいのかなと思います。墨田区の中でも個々に特性があるわけで、その中におけるすみだの夜のあり方をくみ上げていく作業をやったときに、墨田の夜の色がエリアごとに出てくると思ふます。愛着を外側に出していくことが大切であると思ふます。

すみだの夜の風景

料亭街の風景



朝焼けの風景



横網町公園の風景



屋台の風景